



月刊 千葉労働

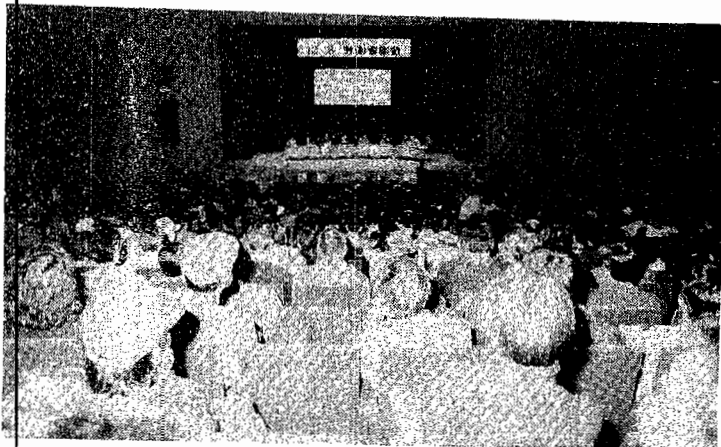
国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号(動力車会館)
電話 (鉄電) 千葉 2935・2936 番
(公) 043 (222) 7207 番

No.

94.12.22 4116

4大スローガンに労働者階級こそが攻撃を打倒しうる！ 12.18労働者集会の地平



たたかう労働運動の新しい潮流をめざす、一二・一八労働者集会在、横浜市民文化会館・関内ホールにおいて、九・一八集会で提唱された四大スローガンを柱にこの間奮闘し、新たな潮流となるべく結集した、労働者九一〇名の熱気の中で開催された。

大失業時代に抗する労働運動を

第一のスローガンでは、スロ自主・山川中央書記長より、「世界は大失業と戦争の時代に入り、日経連・永野の『二〇〇〇万人失業』発言にも表れている通り、労働者を『生かさず、殺す』と支配の在り方を大転換している。その結論は、戦争に備え、戦争を遂行するためにある

ということだ。労働者が資本家を解雇する権利を持たず、資本家が労働者を一方的に首を切る『権利』があるという事実を労働者階級として自覚しないうちにこの関係を引つ繰り返すことを真正面に据えて闘うことが肝要だ。『労働者・人民を食べさせていけない』『帝国主義を打倒し、それに変わる労働者・人民の政治・経済・社会・文化体制を作ることを目指す道を選ぶ』と提起された。

反戦・反侵略・差別・排外主義と対決する労働運動を！

第二のスローガンでは、動労水戸・辻川委員長より、「ソ連崩壊により世界は剥出しの対立の時代に入った。朝鮮をめぐる侵略戦争の切迫は、アメリカによるアジアでの政治的・軍事的な支配の再確立であり、それを見据えたものとして、『日本改造計画』が出され、核心として侵略戦争への決断がある。その骨格には、①国際貢献論、②戦争責任問題の決着―連合の五〇周年集会、民間右翼の『戦没者への追悼と感謝の決議』運動、③差別・排外主義の強化、④自衛隊の侵略軍隊化がある。これと対決する九〇年代労働運動は、侵略と戦争に真っ向から対決する労働運動、体制内労働運動の道を乗り越え、帝国主義の存在と延命を拒絶するもの、侵略の対象とされている人民と連帯し一体とならなければならない」とスローガンの画期的意義が展開された。

国鉄闘争を水路に、連合路線と対決する労働運動を創りだそう

第三のスローガンは、動労千葉・田中書記長により提起された「新しい潮流のめざす労働運動とは、『連合内から反乱を起こし、内外から引つ繰り返す』ことが組織的性格であり、社会主義思想を復権させなければならぬ。連合の本質とは、『闘う労働運動の圧殺と支配階級による労働者支配の先兵、侵略戦争に労働者をかりたてる役割』と喝破し、これから産報化をめぐる本格的攻防が始まる。国鉄労働運動をめぐる攻防こそ、日本労働運動全体をめぐる戦略的攻防であり、国鉄闘争を水路とする闘いが決定的に重要となっていることを改めて認識しなければならぬ」と訴えた。

村山自社連立政権打倒！

闘う労働者の党を作りだそう！

第四のスローガンは、葛飾区教組・米山副委員長より、「村山政権は支持できない―打倒すべきという立場をはっきりさせなければならない。決定的な問題は、『社会党首相』というところで労働組合を体制内に取り込んで、自民党政権でも出来なかつた反動的諸懸案の実行を許してしまっていること。これまでに社会党を支持してきた一千万、二千万の労働者を無力感・絶望感にたたき込み、階級意識を解体し、侵略戦争に動員してこれと闘うこと、反動的役割を果たしていること。であるからこそ、



社会党にきつぱりと見切りをつけ、労働者として生きぬくために労働者階級の利害を貫く党を作り出すことに、真剣に踏み出す時がきている」と提起された。以上の四大スローガンについての提起を受け、提起者、そして助言者を含めたパネルディスカッションを通し、また、動労千葉・中野委員長のもとめを受けて、全体が新たな潮流をめざして闘い抜くビジョンが確立された。

歴史を画する九五年の闘いへ

とりわけ九五年に向けた闘いは決定的に重要である。

戦後五〇年、被爆五〇周年、沖縄戦五〇周年、そして改憲策動と国民運動的なものとして襲いかかってくる。

これと対決し、打倒していくものは労働者階級しかないということを自覚し、新しい労働運動の潮流を作っていくようではないか！